少子高齢化時代における学生と地域の高齢者、子どもとのふれあい活動
―施設ボランティアを通じて学生は地域で何ができ、何を学ぶのか―

中川　まり　准教授
（家政学部　ライフデザイン学科）

１　プロジェクトの目的と実施概要

本プロジェクトの目的は、家政学部ライフデザイン学科家族社会学研究室に所属する 3 年生 11 名が、地域の高齢者および子どもとのふれあい活動を実践し、地域貢献を実践するとともに、家族の多様化とコミュニティにおける支援との関係性を学ぶことである。活動実績は、高齢者施設での活動 3 件、保育施設での活動 1 件である。高齢者施設での活動は、令和 7 年 5 月 29 日、7 月 3 日に千代田区立一番町特別養護老人ホーム（千代田区いきいきプラザ一番町）に訪問し、入所者とのお話、配膳補助、施設で働く職員の方々から仕事内容を聞くなどを行った。参加学生は活動として、世代間交流と高齢者のお世話をすることで、高齢者施設での温かいケアの実際と世代間交流による高齢期の心の豊かさについて学ぶことができた。そして一番町町会のご依頼により「第４３回瀧廉太郎を偲ぶ会」（10 月 19 日）において、同施設入所者の車いすを押して会場を回り、外出補助を行った。

保育施設での活動として、12 月 18 日にグローバルキッズ六番町園（千代田区六番町）において保育ボランティアを行った。2 歳児から 5 歳児までの子どもとの遊びやコミュニケーション、世話を通じ、都市型保育所の特徴、世代間交流、子どもの育ち、保育士の仕事などを体験することができた。活動を通じた地域への効果と意義として、施設職員の方々からいただいた得たコメントによると、高齢者は学生とのコミュニケーションを通じて、活力や癒し、認知機能の活性化などの効果が期待された。保育施設では、未就学児が青年期である大学生と交流することで身体を使った遊びやコミュニケーションを行い、世代間交流をすることができた。参加学生の教育効果は、介護、保育、高齢者および保育施設の理解、仕事理解、地域貢献、世代間交流について授業で学んだことを実践として学ぶことができ、家族の多様化とコミュニティでのケア役割・支援との関係性についても考察できたことが挙げられ、有意義な教育効果が得られた。

２　体制

本プロジェクトの体制は以下の通りである。

リーダー　中川　まり（家政学部ライフデザイン学科准教授）

メンバー　家政学部ライフデザイン学科家族社会学研究室に所属する 3 年生 11 名

藪　遥菜、村井　佑衣、雨宮　花奈、小泉　瑚華、福田　杏実、佐々木　愛珠、中野　紗希
吉田　里麻、野瀬　美涼、宮川　萌花、島田　麻央

なお、プロジェクトには以下の各所にご協力をいただいた。記して御礼申し上げる。

湖山医療福祉グループ社会福祉法人カメリア会（千代田区立一番町特別養護老人ホーム）
グローバルキッズ六番町園
千代田区一番町町会

３　活動成果

高齢者施設でのボランティア活動

（1）活動1　日時　5月29日（木）10:30-12:30

場所：千代田区立一番町特別養護老人ホーム、デイサービス（千代田区いきいきプラザ一番町）

参加者：メンバー6名およびリーダー

活動内容：デイサービス（4階）での高齢者とのコミュニケーション、体操の補助、食事配膳などを行った。特別養護老人ホーム（5階、6階の2フロア）での高齢者とのコミュニケーション、食事配膳補助、エプロンを付けるなどを行った。

（2）活動2　日時　7月3日（木）10:30-12:30

（1）と同施設においてメンバー5名がリーダーと共にボランティア活動に参加し、活動1と同様に高齢者施設でのコミュニケーション、ケア活動補助を行った。



「滝廉太郎を偲ぶ会」での車いす補助

（3）活動3　日時　10月19日（日）11:00-16:00

参加メンバーは9名と引率教員1名である。一番町町会イベント「滝廉太郎を偲ぶ会」にて、千代田区立一番町特別養護老人ホームの入所者の方々の車椅子を押すなどの外出補助を行った。春の訪問でお世話になった方々と再会し、会話も弾んだ。

保育施設でのボランティア活動

（4）活動4　日時　12月18日（木）10:00-12:30

場所：グローバルキッズ六番町園　参加者：メンバー11名、中川引率　計12名　園内見学後、年齢別の各クラスに分かれ、保育園での子どもとの遊びやふれあい通じた保育体験を行った。学生は「保育の現場が子どもたちの生活の基盤であり、成長を支える重要な場であることを改めて実感し（中略）保育士の方々の専門性や努力を間近で感じる貴重な機会」（学生K）が得られたことが大きな学修効果である。



子どもたちとの遊びを終え保育園の前で

4　社会貢献としての成果と教育効果

本プロジェクトを通じた社会貢献は、高齢者施設では高齢者が学生との対話を通じて、表情が明るくなり、人生経験について若者に語る機会を提供できた点である。施設によると、こうした交流は高齢者の認知機能の改善が期待できるとのことである。そしてこの貢献は、一方向ではなく、双方向であることが本活動を通じた気づきである。ボランティア参加学生は、千代田区に居住する女性の歩み、地域の歴史、高齢期、社会的ケアを学ぶという貴重な機会を得ることができた。そして保育園では、社会貢献として子どもに地域の大学生との遊びを通じた世代間交流の機会を提供することができた。教育効果として参加学生は都市型保育所の特徴、世代間交流、子どもの育ち、共働き時代における保育所の役割などを学ぶことができた。活動成果を本プロジェクトの目的に照らすと、学生は地域における高齢者および子どもとのふれあい活動による地域貢献を実践するとともに、家族の多様化にともなう高齢者や子どものケアは施設だけでなく地域の人々よる支援も重要であることを学ぶことができた。それと同時に学生はボランティア活動を通じて、高齢者の語りや子どもが育つ様子から、人間の発達、社会関係について学びを得たことも意義ある教育効果であり、それは教員も同様である。